始

大正
3. 10. 20
内交

特100
417

朝ぼらけ

のこんの夢のさめやらぬ
心おかるゝ家あとに
昨日も今日も明日もまた
同じ道筋テクテクと
色香あせたる紫包み
後生大事に抱えこみ
ひとの榮華よそにして
脇目もふらず急ぎ足
アレ人の親腰辨當

滿員こみあふ割引電車
人の鈴なりぶらさがり
げに目白おしの窮屈さ
紳士の禮もへちまの皮
先客樣をつきやりて
おしのけくゞる早業は
ソンジョそこらにすまし給ふ
金緣眼鏡のハイカラも
八字ヒゲの先生も
おぼえなしとは云ひ得まじ

朝な朝なの關守は
出勤簿のかゝりなり
たれが捺しても寸法に
かはりのあるべき筈なきに
印形ベタベタお茶濁す
これも仕事の一つにて
馬鹿げきつた譯なれど
一分ちがひにピクピクと
冷汗ながす藝當は
はたから見れば笑止ならん

男と生れしその甲斐に
何とかしても一かどの
名をあげたきは山々の
おもひに任せぬ身の不運
たれをうらみん籠の鳥
あがく羽音のいぢらしや
わが兒の出世夢に見て
遠くはなれし故郷に
老を養ふ親たちの
知らぬが佛か極樂か

ガソリンの臭ひ

都の空はすゝぐもり
紅塵、百尺渦をまき
車馬絡繹のそのなかを
せわしく駈けるタキシーは
腰辨づれに縁遠く
親のゆづりの膝栗毛
指をくわへて見おくれば
あらにくらしや殘念や
眞向正面ガソリンの
臭ひをあびて咽せにけり

一年二年三年や
饅のぼりに追々と
あき椅子あと釜狙ひこみ
辛抱辛氣なうきつとめ
二重の腰を三重にまげ
盲従盲動ひたすらに
上役共のヒゲ塵を
はらひ落しておだて上げ
胡麻することを得手となす
乞食根性さもしけれ

身を削られて鰹節
味をのこしてすてらるゝ
さてコシペンの笠の臺
こぎ使はれてその揚句
何時けし飛んで仕舞ふやら
難癖附いて扶持はなれ
あはれはかなき身の上は
俎に寢てやいば待つ
鯉の心とひとつにて
身も魂もそはぬなり

誰れに見せよとて紅おしろい
おんなばかりと思ひきや
腰辨黨のそのうちで
若殿原の面々が
伊達を競へるいでだちも
月々くるしき遺り繰に
シャツの破れをつなぎゆく
一皮はげば骸骨の
上を裝へる花見かな
靴磨かざれば光なし

腰ベンケイ

世辭で丸めて浮氣でこねる
粹なつとめは女護の島
それにひきかへこれはまた
野暮の骨頂と申すべき
帳面相手にゴ合算
氣のつまる事おびたゞし
尻たゝかるゝ馬車馬乎
三百六十有餘日
考えて見るまでもなく
自分のからだ幾日ぞ

ならぶ机のかずかずに
陣取りかまふ唯かれも
三人よせてどうやらに
文珠はおろか一文の
徳にもならぬ無駄ばなし
給金手當の泣言か
重役共のアラ探し
樂屋落やら手前味噌
ドンを合圖に開かるゝ
ストーブ會議おもしろや

摘み喰ひするお三どん
買ひ喰ひをやる小僧連
人並はづれぬ薄給者
少しなりとも餘計にと
現在つとめてゐながらに
鵜の目鷹の目氣をくばる
首尾よくゆけばよけれども
よくある奴であて外れ
骨折損のくたびれ儲け
虻蜂とらず見苦るしゝ

國古ければ舊跡に
旅のあはれや催さん
銀行會社商店の
整理保存の書類こそ
數十百の人々が
永き月日のそのうちに
汗にまみれし苦しみの
痕ぞありあり偲はるゝ
心なき紙たばの
知るや知らずや世々のあと

尾をふる犬は菓子もらひ
吠えつく犬はなぐらるゝ
あたまをさげて諸々と
身輕に働く上手もの
さるをどこで覺へたか
屁理屈ならべて口返答
逆ふて見ねば氣のすまぬ
損な氣性のかわりもの
手あたり次第ぶつつかり
はたの迷惑かぎりなし

金番倉番出納役
ひとに聞ゑはよげれども
可わいそうにも内幕は
帳尻合はず氣はいらつ
一方ならぬ心配に
夜の目も碌にねむられぬ
因業至極な役目とて
お守り同様はなさずに
肌につけたる鍵こそは
壽命ちじめの藥なれ

なくて七癖ひとびとの
すきとこのみに別あれど
月給とりのいき休め
あれやこれやの口實に
夜を更かしての交際も
宴會歸りは二次會を
蘭燈くらき四疊半
二日酔の停電は
身にしむ吐息四苦八苦
月のおわりぞ慘めなる

あたら盛りを

鬼も十八蛇もはたち
あたら出花のさかりをば
横道ぞれの思案して
色香にまよひ身を削り
恒産つくるひまもなく
分別顔の中老が
その日ぐらしに迫まられて
褌かつぎヨチヨチと
まだ腰辨の浮き苦勞
蓋し見上げたものでなし

夕まぐれ

いこひをつぐる鐘の音に
家路を急ぐ五分前
悠々然と上役が
頬杖ついて事なげに
かまひこまるゝ自烈つたさ
よんどころなく仕舞ひたる
仕事ボツ〳〵引きずり出し
體裁つくり澁々と
時間をつなぐせつなさよ

腰ベン
三十年

夢が浮世か浮世が夢か
夢の浮橋たどりつゝ
あたら有爲の才抱き
腰辨當やいくとせの
すぎこしかたをかへりみて
身の行末をおもひなば
腸ちぎる心地あり
口惜し涙ぞ止め度なき
因縁づくか天運か
笛になる身が火吹竹

大正三年十月十五日印刷
大正三年十月十七日發行

定價金拾貳錢

ソロバン文學
その一
腰辨

作者　山口龜之助
畫者　兒島鄕吉
發行者　千代浦昌　京橋區銀座一丁目九番地
發行所　中屋商店　京橋區銀座一丁目九番地
印刷者　北村文重　京橋區木挽町二丁目十三番地
印刷所　中屋商店印刷所　京橋區木挽町二丁目十三番地

475

終